

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01189

研究課題名（和文）現代資本主義における「価値づけの装置」に関する経済地理的研究

研究課題名（英文）An Economic Geographical Study on the "Device of Valuation" in Contemporary Capitalism

研究代表者

立見 淳哉（Tatemi, Junya）

大阪公立大学・大学院経営学研究科・教授

研究者番号：50422762

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、現代資本主義における財・サービス・人の価値づけvaluationのロジックに着目し、価値づけおよびその装置をめぐる空間の構築というパースペクティブから、「豊穡化の経済」を生かした今後の地域発展の課題や可能性を考察した。対象としたのは、グローバル経済で繁栄する大都市と、脱工業化を特徴とする斜陽工業地域である。本研究では、理論的・経験的な考察を通じて地域への価値づけの論理を明らかにするとともに、とりわけ衰退地域の発展に向けた展望を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「豊穡化の経済」を背景にした今後の地域発展の方向性を展望するための基礎となる作業を行った。本研究は、「すでにあるもの」を生かして地域への価値づけを行うことで、衰退地域や地区の持続的発展を実現する可能性や、その過程で直面することになる課題等を学術的に明らかにすることを試みた。当該テーマの考察の土台となる理論の模索と地域の実態把握を通じて、今後の地域発展に向けた一つの展望を得ることができたことは、学術的・社会的に意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）： Focusing on the logic of valuation of goods, services and people in contemporary capitalism, this study examined the challenges and possibilities of regional development based on the 'economy of enrichment' from the perspective of valuation and the construction of space around this device. The target regions were metropolises prospering in the global economy and declining industrial regions characterised by deindustrialisation. Through theoretical and empirical considerations, the study clarified the logic of the valuation of regions and, in particular, obtained a future perspective for the development of declining regions.

研究分野：経済地理学

キーワード：価値づけ 豊穡化 衰退地域 創造産業 地域発展

## 1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進行と現代資本主義の変容の中で、多くの都市・地域経済がラディカルな変化を経験している。1980年代以降、かつての経済成長を支えた工業経済に代わって、新しい経済の特徴が議論されてきた。近年では、創造経済(フロリダ, R.)や認知的・文化的経済(スコット, A.)といった言葉で、社会・経済の変容を捉えようとする試みがなされている。スコットの議論が着想を得ている認知資本主義論を参照するならば、現代資本主義においては、産業経済とは異なり、非物質的財(差異、意味、特定の感情をもたらすコミュニケーション)の生産が主流となることで、財の価値の基準が多様化している(山本泰三編『認知資本主義』ナカニシヤ出版, 2016)。そして、その過程で、地理(空間編成)の世界的な再編が進んできた。そうした非物質的財の価値を生産する空間として適した大都市が「創造的」セクターの集積地域として台頭・繁栄する一方で、かつての産業経済を牽引した都市・地域は脱工業化の中で斜陽化し、深刻な社会問題に直面している。

本研究では、こうした現代資本主義をめぐる一般的状況を踏まえて、財・サービス・人の「価値づけ valuation」のプロセスに着目するとともに、それをめぐる空間の構築というパースペクティブから、今日的な地域発展の特質と、とりわけ衰退地域の発展展望を探るものである。具体的には、以下のような一連の問いを設定し、研究を進めてきた。

すなわち、価値の生産の仕組み(価値づけ valuation)とその空間的次元とは具体的にいかなるものか(問い)。そして、この課題に取り組むための新たな理論フレームとはいかなるものであるか(問い)。これらの観点から、大都市圏以外の斜陽工業地域の発展展望を得ることができるのか(問い)、というものである。

## 2. 研究の目的

上記の問いに取り組むため、本研究では、現代資本主義を「認知資本主義」論あるいは「資本主義の新たな精神」の観点から特徴づけながら、市場交換の前提となる、生産物(財・サービス)の価値づけの仕組みとその空間的含意を明らかとすることを目的とした。その際、コンヴァンション派の社会学者で「資本主義の新たな精神」(1999)の著者でもあるボルタンスキーとエスケレ(2017)によって提起された「豊穡化の経済 *l'économie de l'enrichissement*」とそれに固有の価値づけ様式を導入することで、上記の二つの地理的現象を関連づけ、考察した。「豊穡化の経済」においては、「すでにあるもの」の歴史や文化を通じた「豊穡化」(=価値づけ)が、都市・企業の競争力の支えとなるだけでなく、斜陽工業地域への価値の再付与とその新たな発展可能性の芽をひらく。こうした観点から、価値づけ概念を中心に、大都市空間の再編および斜陽工業地域・農村地域の新たな発展可能性を模索した。

## 3. 研究の方法

本研究の中心概念である「価値づけ」は、この10年ほどで経済地理学を含む様々な分野で関心を集め、急速に研究が蓄積されつつあるテーマである。「価値づけ研究 valuation studies」は、理論的には、コンヴァンション理論やアクターネットワーク理論から着想を得てきた。本研究は、研究代表者がかねてより取り組んできたコンヴァンション理論に依拠することで、「価値づけ」が持つ理論的射程を明らかにするとともに、それを今日的な地域発展をめぐる研究に結びつけることを試みる。

コンヴァンション理論の観点において、価値づけとは人や生産物の性質決定 qualification におよそ相当する操作であり、市場交換においては社会秩序が生成し機能するための前提となるプロセスを指す。それは、人(例えば労働者の能力)や生産物の価値づけにフォーカスすることで地域/産業イノベーション研究に寄与するだけでなく、地域そのものへの価値づけを問うことで、「地域の価値」の形成(独占レントをもたらさう)や「遺産化 *patrimonialisation*」を通じた地域発展の道筋までの扱うことが可能である。また、経済理論との関連では、産業集積や地域イノベーション論で重要な理論的基礎となってきたコーディネーション *coordination* の問題から、特に2000年代にコンヴァンション理論が新たに切り開いてきた地平である、「価値づけの権力」をめぐる政治経済学的プロセスまでを架橋することが可能である。

## 4. 研究成果

以上のとおり、本研究は、現代資本主義における財・サービス・人の価値づけ valuation のロジックに着目し、価値づけおよびその装置をめぐる空間の構築というパースペクティブから、今日的な地域発展のあり方にアプローチした。これを通じて、一方で大都市の繁栄と、脱工業化を特徴とする斜陽工業地域(フランス)や人口減少局面にある非大都市/農村地域(日本)の活性化という地理的現象を試論的に考察した。

研究期間を通じた成果としては、以下の点をあげることができる。

第一に、理論的な研究の進展である。上述した研究方法自体が、研究機関を通じて検討され精緻化された成果でもある。研究代表者の立見を中心に、フランスのコンヴァンションナリストたちとの研究交流を重ねつつ、価値と価値づけに関する理論研究の成果を整理、検討した。そして、その知見を踏まえて、現代資本主義の特質を踏まえた地域発展論の構想へと結びつけた。地域経済学の研究者たちが提起している「地域の価値」をめぐる議論とも連動しながら、また、斜陽化してきた農村地域の新しい動向である「田園回帰」の社会経済的意味を探る研究とも接続しながら、地域への価値づけを軸とする、これからの地域発展の姿を展望した（たとえば、立見「新しい地域発展理論」小田切徳美（2022）『新しい地域をつくる』岩波書店）。「価値づけ」に関してはさらに理論的な精緻化を進め、コンヴァンション理論の最新成果を検討することで「研究方法」で示したような独自の枠組み、すなわち、コーディネーションと、搾取など政治経済学的トピックを架橋するような枠組みを得た（立見淳哉・山本泰三（2022）「価値と価値づけの理論的検討」『季刊経済研究』40(1-4)）。

第二に、都市・地域産業を対象とした成果がある。価値づけ理論をベースに事例研究を重ねることで、価値づけの実際のプロセスを描き出すとともに、それを支える装置とはいかなるものかを検討した。特に大都市への強い集積傾向を有する創造産業を中心に、実態把握を進めた。Covid-19の影響で研究開始後数年間はフィールド調査を実行することが困難であったり、その後も制約があったものの、アートやラグジュアリー（ファッション）産業をめぐる文献読解やフィールド調査を実施した。この研究に関しては、基本的なアイデアや着想を固めることができた段階であり、価値と価格の関係に実証研究からアプローチするものなど、今後論文化していくことを計画している。

第三に、現代資本主義ないしは「豊穡化の経済」における地域への価値づけと空間の再編に関する研究である。これについても、文献読解を中心としたどちらかといえば理論的な研究に加えて、フィールド調査を進めることで、実態把握とこれからの地域発展の方向性や可能性に関する考察を行った。また、フランス・リール地域の社会連帯経済に関する書籍を出版したことも本研究の成果である。立見淳哉・長尾謙吉・三浦純一（2022）『社会連帯経済と都市』ナカニシヤ出版では、研究代表者の立見のほか、分担者の川口、大田が執筆者として加わっている。同書は、直接には、グローバル化した主流の経済とは異なる「もう一つの経済」の構築をめざす社会連帯経済と地域再生に向けた諸実態を扱ったものだが、キーワードである共通財 *bien commun* の性質決定は本研究の理論枠組みから理解されるものであり、また脱工業化による衰退地域の再生に向けた試みは、「豊穡化の経済」のもとでの地域への価値づけによって可能になっている部分が少ない。この成果は、第一の成果で挙げた、研究代表者が提起した新しい地域発展理論のアイデアの核ともなった。

研究期間におけるフィールド調査に関しては、covid-19による制約が大きく、当初計画を大幅に変更せざるを得なかった。とりわけ、フランス調査に関しては大きな制約を受けた。それでも、最終年度である2023年度には分担者の川口が、パリにおける「豊穡化の経済」の展開と場所への価値づけに関する現地調査を実施しており、実態把握を進めている。これに対し、国内調査に関しては、協力関係が確立している兵庫県丹波篠山市を中心に活動するアクターたちに対して、covid-19の時々々の状況を見据えながら地理的近接性を生かして機動的にインタビュー調査を重ねてきた。「歴史的資源を活用した観光まちづくり」と呼ばれる分野を実践的・制度的に開拓してきたアクターである。その意味で、ローカルな実践に加えて当該分野の一般的な展開についても丹念な調査を行うことができたと言える。

インタビュー調査の対象に関しては、事業を開拓・推進してきたアクターに加え、移住起業家、地域住民など多様な立場を含み、多面的な形での実態把握を行うことができた。研究期間内の具体的な成果としては、ルーラル・ジェントリフィケーション論との接点を探った川口の業績を挙げることができる（Kawaguchi, N. (2019) 'A bifurcation of rural gentrification? : An experience of Sasayama, Hyogo' *UrbanScope*; 川口夏希 (2023)「ルーラル・ジェントリフィケーションの分岐点を考える : 兵庫県丹波篠山市の経験から」『都市問題』）。このほか、この間の実態調査から得られた豊富な知見に関しては、現在、科研メンバー各自で論文文化を進めていることに加えて、コアとなるアクターと連携し、学術書籍の形で成果発信することを予定している。なお、当該分野は「豊穡化の経済」における「遺産化 *patrimonialisation*」を通じた地域への価値づけに他ならず、現在の日本でその代表的な事例であると思えるものである。

研究期間全体を通じて、メンバー間ではオンライン会議等を取り入れて密なディスカッションを行うとともに、「豊穡化の経済」の展開が端的に観察されるフランスの実情に詳しい海外研究者とも交流・議論しつつ、調査対象であるフランスの実態理解や、アートやラグジュアリー産業を通じた場所の「豊穡化」をめぐる最新論点の把握を行ってきたと言える。また、フランス・パリや東京など日本の都市のフィールド調査を通じて、場所の「豊穡化」の実態把握を行った。

こうした実態把握を通じて、第一、第二の成果で触れたような価値づけと「豊穡化」に関する分析視点を精緻化することができた。本研究では、グローバル化した経済において繁栄する特定の大都市と、脱工業化や過疎化を通じて衰退する地域の発展を対象としてきたが、結果的に、とりわけ衰退地域への価値の再付与作業に関して重点的な考察を加えることができた。さらに、本

研究の一つの到達点であり、また同時に今後深めるべき新しい課題として、衰退地域の再生においてオルタナティブ経済の実践である社会連帯経済と地域への価値づけという本研究の視点が実態として互いに交差しており、学術的にもそれらを接合することで、今後の持続的な地域発展の可能性が見えてくることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 立見淳哉・山本泰三	4. 巻 40(1-4)
2. 論文標題 価値と価値づけの理論的検討 - コンヴァンション経済学における展開 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊経済研究	6. 最初と最後の頁 48-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24544/ocu.20220329-003	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 立見淳哉	4. 巻 74-3
2. 論文標題 2021年学界展望経済地理一般	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 235-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.74.03_235	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立見淳哉	4. 巻 116
2. 論文標題 地域経済振興と社会連帯経済への期待	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 おおさかの住民と自治	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長尾謙吉・立見淳哉	4. 巻 1
2. 論文標題 持続可能なローカリティ研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 21世紀における持続可能な経済社会の創造に向けて	6. 最初と最後の頁 9-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大田 康博, 立見 淳哉	4. 巻 71巻1号
2. 論文標題 社会的企業の事業活動, 企業形態, ガバナンス フランスの社会連帯経済を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経営研究	6. 最初と最後の頁 65-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 立見淳哉	4. 巻 147巻
2. 論文標題 資本主義, 連帯経済, そして「田園回帰」 - 『資本主義の新たな精神』を縦糸として (特集 資本経済への知的資本)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 iichiko	6. 最初と最後の頁 110-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立見淳哉	4. 巻 1
2. 論文標題 イノベティブ・ミリュー概念の拡張 - 産業集積へのコンヴァンショナリスト・アプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ジオグラフィカ千里	6. 最初と最後の頁 9-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井 扶美, 立見 淳哉, 筒井 一伸	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 農山村における移住起業のサポート実態 兵庫県丹波市を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 E-journal GEO	6. 最初と最後の頁 14-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4157/ejgeo.15.14	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawaguchi Natsuki	4. 巻 10
2. 論文標題 A bifurcation of rural gentrification? : An experience of Sasayama, Hyogo	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UrbanScope : e-journal of the Urban-Culture Research Center	6. 最初と最後の頁 85 ~ 92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24544/ocu.20190606-002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川口夏希	4. 巻 144
2. 論文標題 ルーラル・ジェントリフィケーションの分岐点を考える : 兵庫県丹波篠山市の経験から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都市問題	6. 最初と最後の頁 72-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 Kenkichi Nagao, Junya Tatemi
2. 発表標題 Regional development: How convention theory explains economic development
3. 学会等名 13e congres de l' AFEP (L' Association francaise d'economie politique) 7 Juillet 2023 (国際学会) (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kenkichi Nagao, Junya Tatemi
2. 発表標題 Regional development: How convention theory explains economic development
3. 学会等名 13e congres de l' AFEP (L' Association francaise d'economie politique) 7 Juillet 2023 (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 立見淳哉
2. 発表標題 価値から価値づけへ - 「豊穡化の経済」と価値づけ形態 -
3. 学会等名 文化経済学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 立見淳哉・山本泰三
2. 発表標題 立見・山本論文の骨子
3. 学会等名 地域経済学会「地域の価値」PJ研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 立見淳哉
2. 発表標題 価値づけと地域 - 資本主義の変化を踏まえて -
3. 学会等名 日本地域経済学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 立見淳哉
2. 発表標題 「豊穡化の経済」における地場産業製品への価値の再付与
3. 学会等名 進化経済学会静岡大会・オータムカンファレンス(2020年9月19日)(招待講演)
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 立見淳哉
2. 発表標題 「資本主義の新たな精神」と「豊穡化の経済」...そしてEVERY DENIM
3. 学会等名 まちなか大学トークセミナー（愛媛大学）（2020年8月12日）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 立見淳哉・長尾謙吉
2. 発表標題 認知資本主義と地域経済
3. 学会等名 日本地域経済学会関東支部研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TATEMI, J. and YAMAMOTO
2. 発表標題 Intermediaries and design: Valuation process of the local products in Japan
3. 学会等名 AFEP(Association française d'économie politique )-IIPPE(International initiative for promoting political economy (国際学会))
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立見淳哉
2. 発表標題 田園回帰と「もう一つの」経済
3. 学会等名 Rural Learning Network 第28回セミナー（神戸大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立見淳哉
2. 発表標題 合評会：立見淳哉『産業集積と制度の地理学 - 経済調整と価値づけの装置を考える - 』ナカニシヤ出版」
3. 学会等名 進化経済学会「制度と統治」部会 & 「現代日本の経済制度」部会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 立見淳哉
2. 発表標題 田園回帰と「もう一つの経済」 豊穡化の経済，連帯経済との接点を探る
3. 学会等名 日本地域経済学会第31回京都大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TATEMI, J
2. 発表標題 Intermediary and Design: Valuation process of Local Products in Japan
3. 学会等名 EGOS(European Group for Organizational Studies)and Organization Studies Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 立見淳哉	4. 発行年 2023年
2. 出版社 あるむ	5. 総ページ数 199
3. 書名 「第6章 新しい地域経済の姿をさぐる」大阪公立大学商学部公共経営学科編『公共経営序論』， pp.76-91.	

1. 著者名 Natsuki Kawaguchi	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 360
3. 書名 From “Politique de la Ville” to “Renouvellement Urbain” : Paradigm Shifts of Urbanism in Plaine Saint Denis, Paris, in Mizuuchi, T. et al eds. Diversity of Urban Inclusivity, pp. 273-284	

1. 著者名 立見淳哉, 小田切 徳美ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 254
3. 書名 新しい地域をつくる (「新しい地域発展理論」部分を分担執筆)	

1. 著者名 立見淳哉, 漆原和子, 藤塚吉浩, 松山洋, 大西宏治ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 224
3. 書名 図説 世界の地域問題 100 (「リアルにおける産業構造の転換と社会連帯経済の挑戦」部分を分担執筆)	

1. 著者名 立見 淳哉, 長尾 謙吉, 三浦 純一編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 266
3. 書名 『社会連帯経済と都市 - フランス・リアルの挑戦 - 』	

1. 著者名 筒井 一伸編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 田園回帰がひらく新しい都市農山村関係（第8章，第9章2節を立見担当）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大田 康博  (Ohta Yasuhiro)  (90299321)	駒澤大学・経営学部・教授    (35502)	
研究分担者	立見 夏希 (川口夏希)  (Tatemi Natsuki)  (80647834)	鳥取大学・地域学部・講師    (15101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------